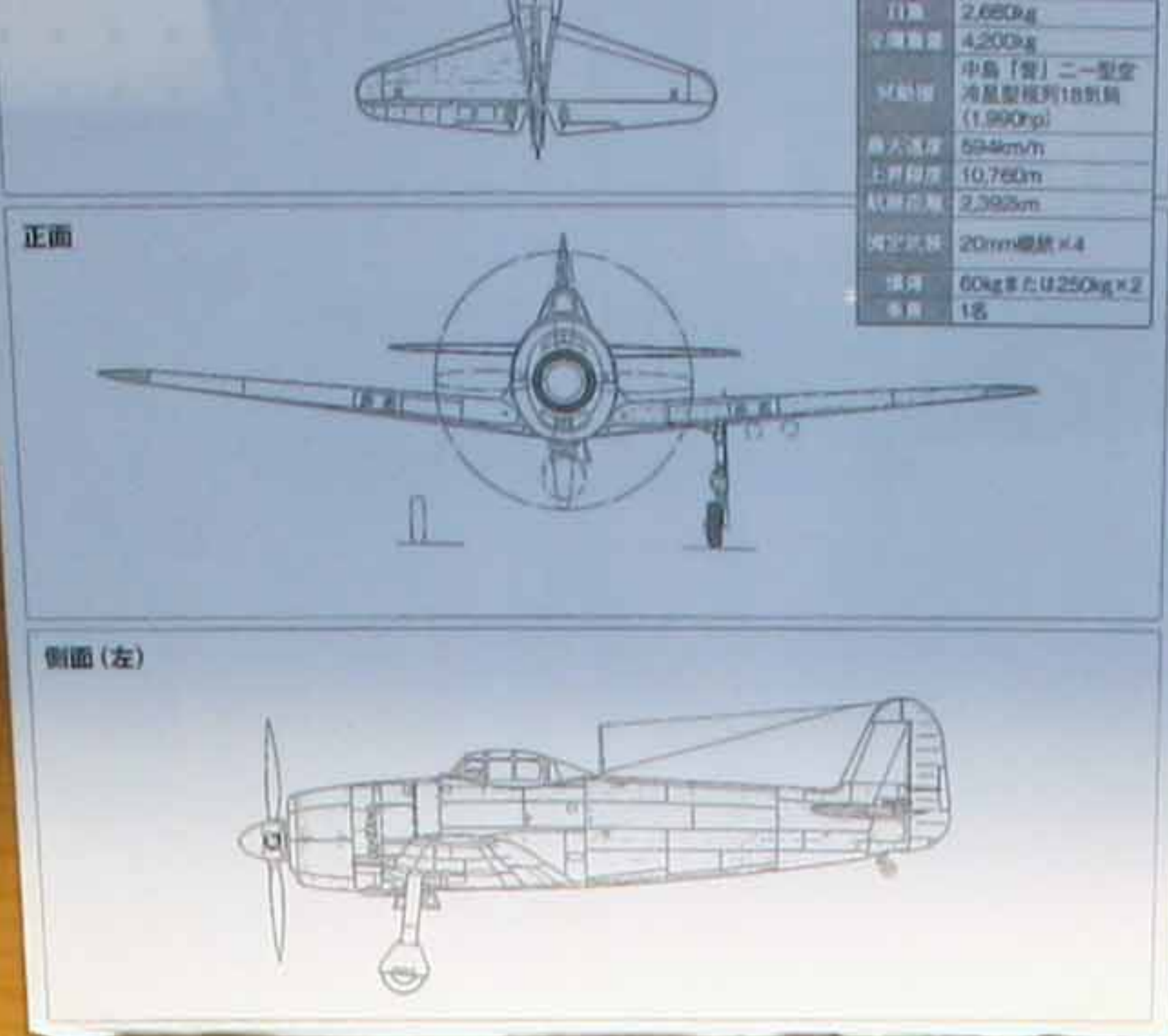


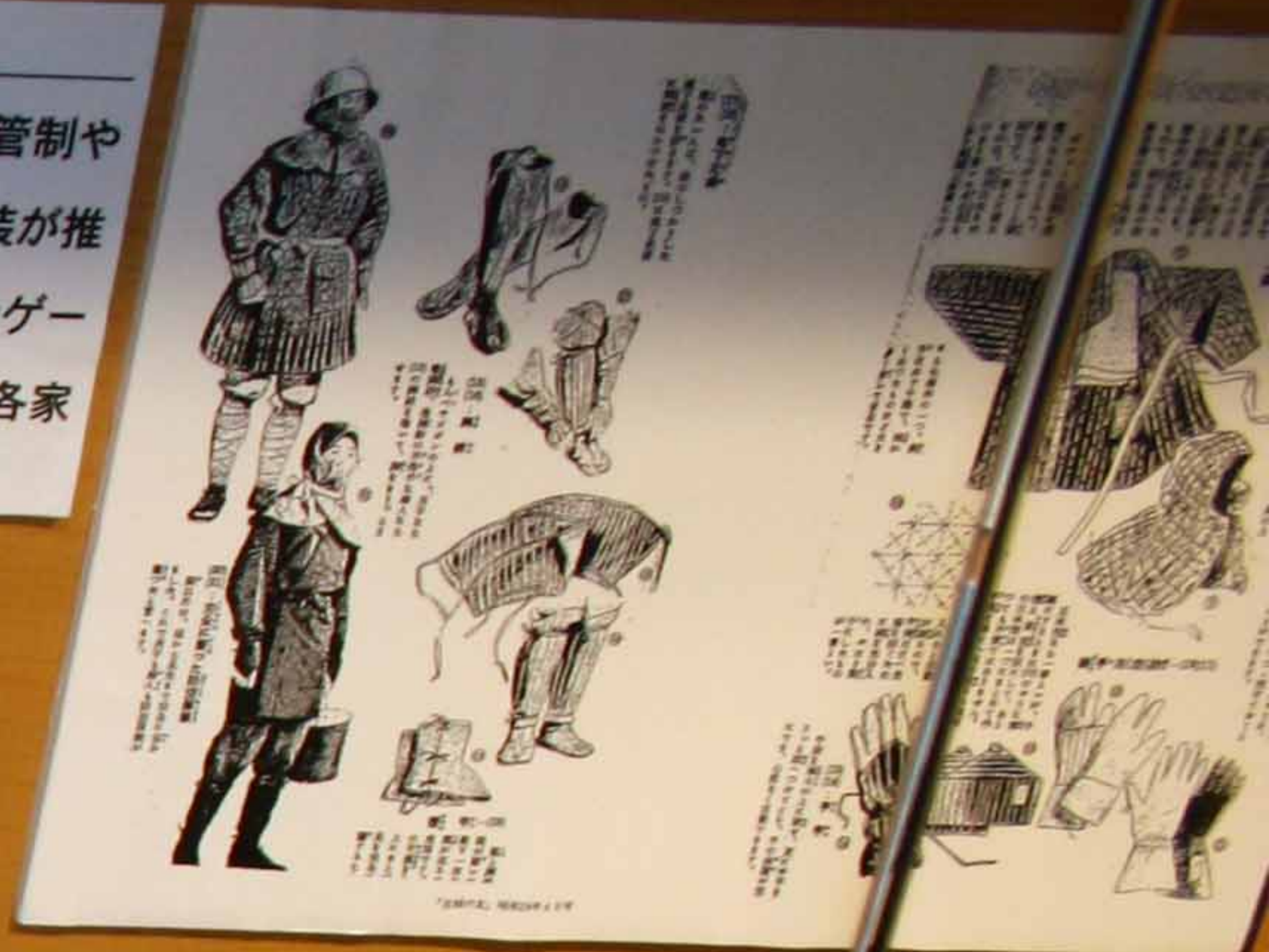


写真1 紫電改は米軍機P-51との戦闘の末、小原の山に墜落した。



紫電改 実物大レプリカ (写真提供：兵庫県加西市)

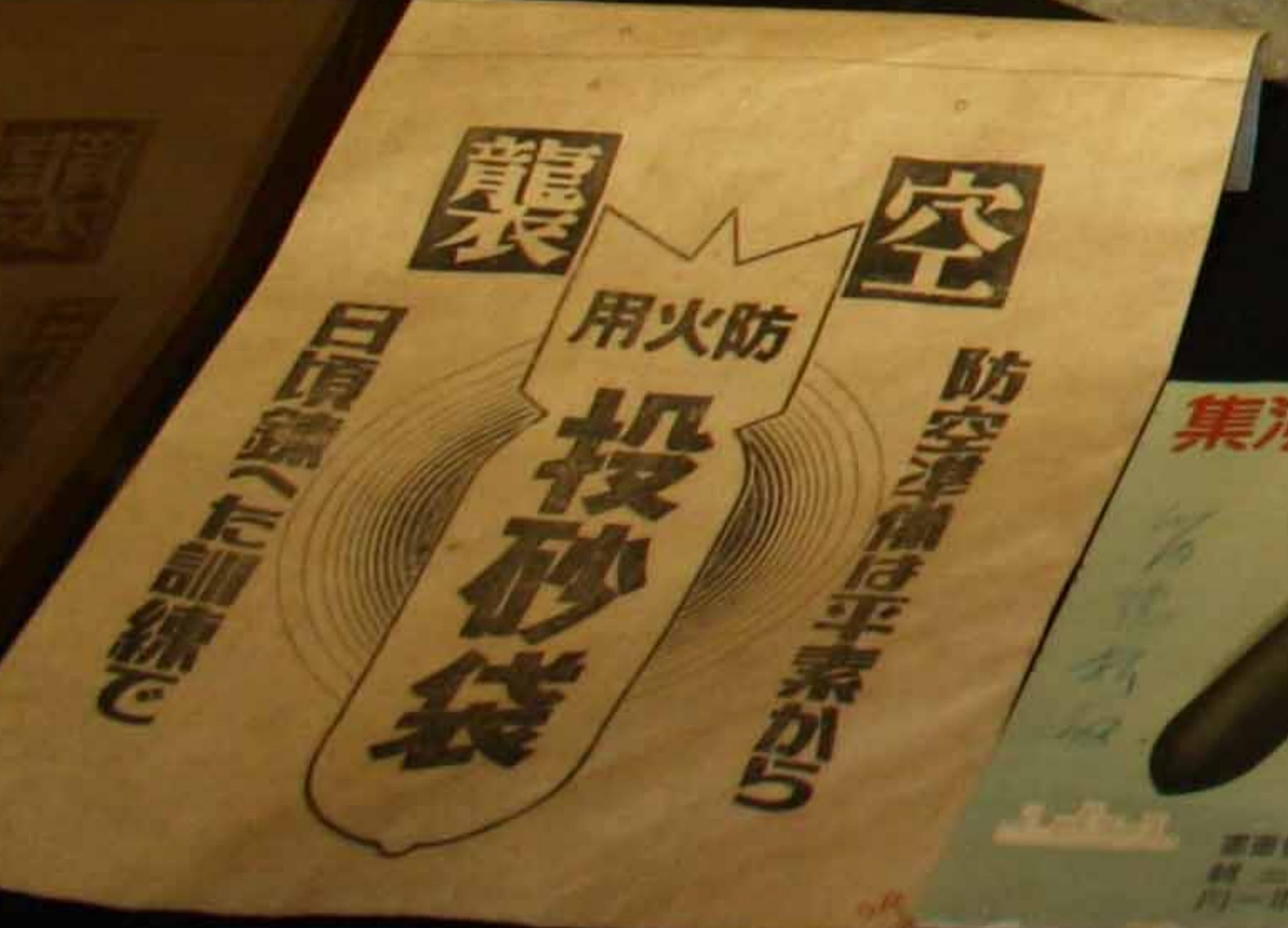
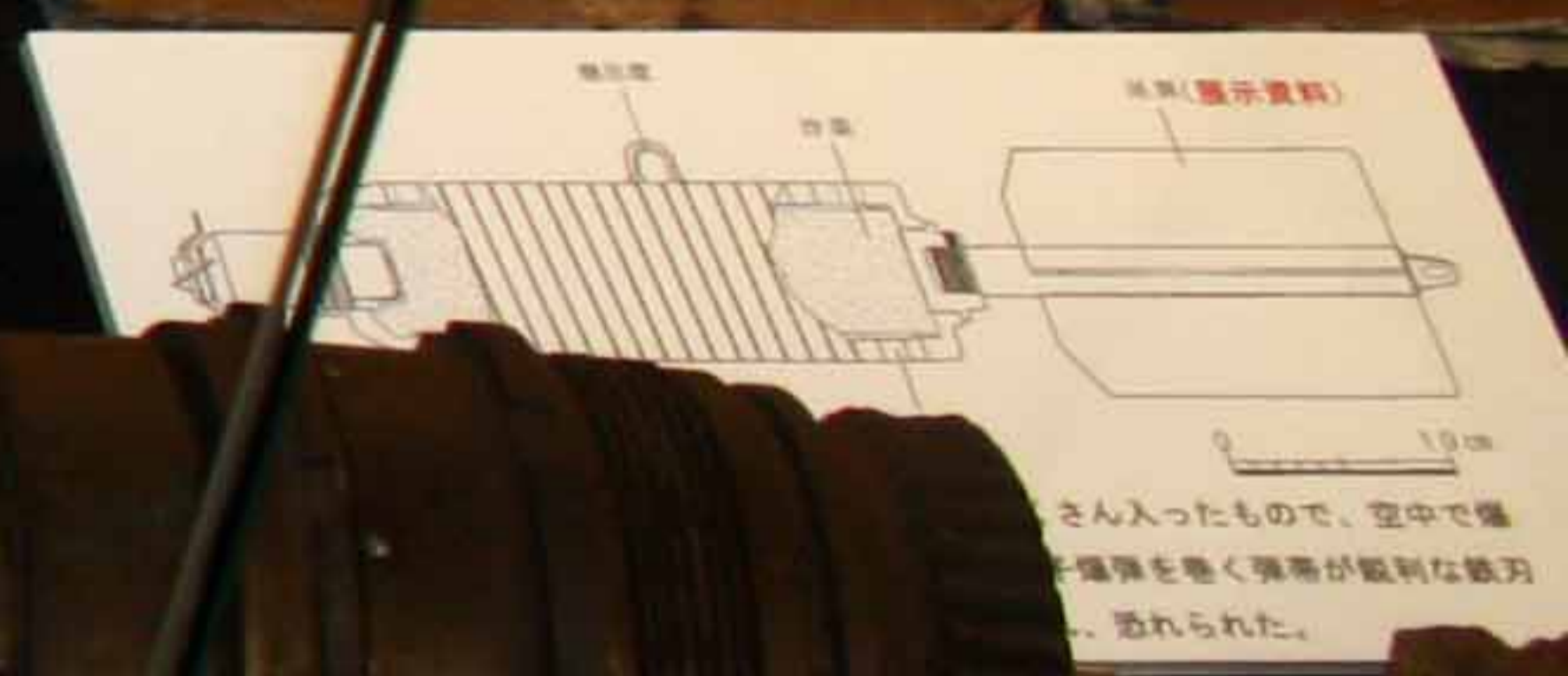
主婦の友 (昭和19年4月号) の防空服
昭和12年(1937)施行の防空法では、国民による灯火管制や消防について定められた。国民の服装も足さばきの良い服装が推奨され、女性はもんぺ、男性はひざ下から足首までを覆う巻ゲートルの着用が模範的とされた。また、爆撃に備え防空頭巾が各家庭に常備された。



↑ 米軍戦闘機P-51による弾痕



↑ 弾痕
家内で破損した軍需の引き戸



防空用投砂袋
防空用投砂袋は、空襲の際に窓や壁に投げつけ、火災の発生を防ぐための代用品。一袋の重さは、1kg程度が適当とされた。1kgの重さで、1m程度の高さに投げつけると、1m程度の高さから落下する。



防空講演集

局地戦闘機「紫電改」の墜落 (小原)
昭和20年(1945)8月8日午前10時15分(アメリカ国立公文書館記録)、日本海軍の最新式戦闘機「紫電改」はアメリカ軍小型戦闘機P-51(マスタング)4機と激しい空中戦の末、美上町小原に墜落した。
この日の朝10時から昼にかけて八幡製鉄所(北九州市)周辺が空襲の被害に遭い、2,500人以上が死傷した。小原に墜落した紫電改は、アメリカ軍機迎撃のため海軍大村飛行場(長崎県)を離陸した戦闘機24機のうち1機で、小原のほか福岡市など各地で合計10機がアメリカ軍に撃墜された。
展示する紫電改のプロペラは4枚羽根の1枚で、小原の地元住民が持ち帰り保存していた。長さ180cm×最大幅27cmのジュラルミン製で、弾丸の貫通痕があり、アメリカ軍戦闘機P51マスタングの12.7mm機銃で攻撃されたことを物語る。
アメリカ国立公文書館には、紫電改が機銃掃射され、煙をあげて墜落するガンカメラ映像(戦果確認の機銃運動カメラ映像)が残されている。



(参考) 米軍戦闘機P-51マスタング

プロペラはジュラルミン製で、歪みなど大きな傷はなく、ハブに接続する鉄製の軸部もほぼ完全な状態である。
羽根裏面の軸部付近には黄色の長方形プレートシール跡があり、名称や型式、規格等が書かれたプレートの跡と思われる。また取付軸先端部のジュラルミン断面の上部には「V-D-4223」「◇-NO-17448」「◇-NO-954N171」と細かな字が刻印される。
井桁文は住友金属の社章、桜のマークは住友金属桜島工場(大阪市此花区)と印と思われる。



局地戦闘機「紫電改」プロペラ

築城海軍
昭和19年(1944)飛行場周辺が空襲を受け、昭和20年(1945)行場格納庫が焼失。戦艦や海軍機の残骸が、8月1日、児童4...